

平成21年度 第4回

大阪府・大阪市経済動向報告会

第1部：最近の大阪経済の動向 資料

『見出しあぐねる大阪経済再生の活路』

平成22年1月29日

財団法人大阪市都市型産業振興センター

経済調査室長 徳田 裕平



【本日の話題】

- ☆ この2年の景気認識を振り返る
- ☆ 景気動向データが語るトレンドから読み取る
- ☆ 月次オーダーで大阪経済を俯瞰する
- ☆ 不況からの脱却の道筋はいかに

1 この2年の景気動向を振り返る

各種機関での業況総括判断推移の比較

年月	【国（内閣府）】	【近畿（日経大阪支店）】	【大阪市】	【経済調査室のフェーズ】	年月
07年10月	このところ一部に弱さが見られるものの、回復している		「年末需要で業況は盛り返すも、『踊り場』の様相が強まる」		07年10月
11月					11月
12月	一部に弱さが見られるものの、回復している				12月
08年1月	このところ回復が緩やかになっている	緩やかに拡大している	「経済環境急変に伴う新たな均衡へ向けた調整過程が進行」	＜フェーズⅠ＞ 金融パブル崩壊の兆候現れるも大害に至らない澄伏期	08年1月
2月			・異次元の世界へワープするトンネルに突入		2月
3月	景気回復は、このところ足踏み状態にある				3月
4月					4月
5月	景気回復は足踏み状態にあるが、このところ一部に弱い動きがみられる	一部に減速の動きがみられるが、基調としては緩やかに拡大している	「コストプッシュにより一部の企業で価格転嫁が進展」	＜フェーズⅡ＞ 金融パブル崩壊が最悪し、投機マネーが世界を駆け巡った激震期	5月
6月					6月
7月	このところ、弱含んでいる	減速している	「内外需の弱さと原油価格の反落で方向感が定まらない不安定状態」		7月
8月					8月
9月					9月
10月	停滞している	停滞している	「需要の急激な縮退により大企業中心に業況等が急降下」		10月
11月	停滞している。・・・下押し圧力が急速に高まっている	停滞している	「エアポケット的に」	＜フェーズⅢ＞ 外需依存型の日本の実体経済が急激し、製造業が激減した最悪期	11月
12月	悪化している	停滞色を強めている			12月
09年1月	急速に悪化している	悪化している	「景気悪化は業種・規模を問わず急拡大」	・総崩れ	09年1月
2月	急速な悪化が続いており、厳しい状況にある	大幅に悪化している			2月
3月					3月
4月	厳しい状況にあるものの、このところ悪化のテンポが緩やかになっている	大幅に悪化しており、厳しい状況にある	「景気は底入れの兆候が見られるものの、依然厳しい水準」		4月
5月	厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる	厳しい状況にあるが、悪化のテンポは和らいできている			5月
6月	厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる	なお厳しい状況にあるが、下げ止まりつつある	「景気は下げ止まりつつあるものの、なお厳しい水準」		6月
7月	失業率が過去最高水準となるなど厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる	なお厳しい状況にあるが、下げ止まっている			7月
8月					8月
9月				＜フェーズⅣ＞ 緊急経済対策の効果が徐々に現れるも、景況が不透明な底入れ期	9月
10月					10月
11月	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	雇用面などに厳しさを残しつつも、持ち直しの動きがみられる。	「景気は持ち直しの動きに向けて足踏みとなり、予断を許さない状況」		11月
12月		雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、緩やかに持ち直している			
1月					

財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

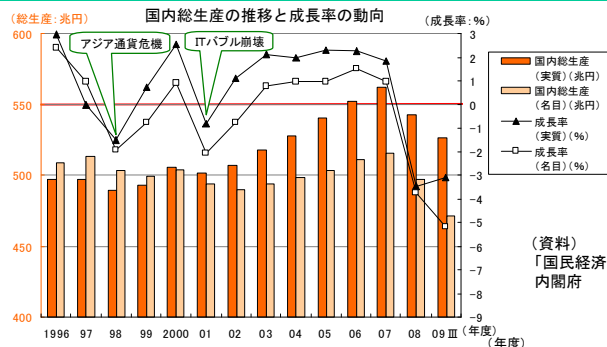
目指すべきフェーズⅤ：
潜在需要に応える新たな
社会構築に向けた
持続的革新スパイラル期

回避すべきフェーズⅤ：
有効需要が見出せず、倒産増、
失業者増に陥る不況スパイラル期

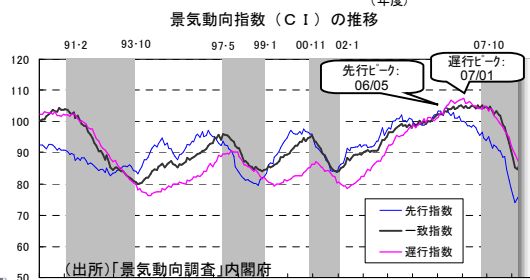
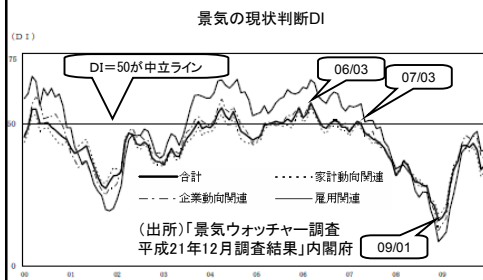
2 景気動向データが語るトレンドから読み取る

(1) 2007年度までは
本当に経済は成長
していたのか？

実質経済成長率は
本当に正しい見方
なのか？



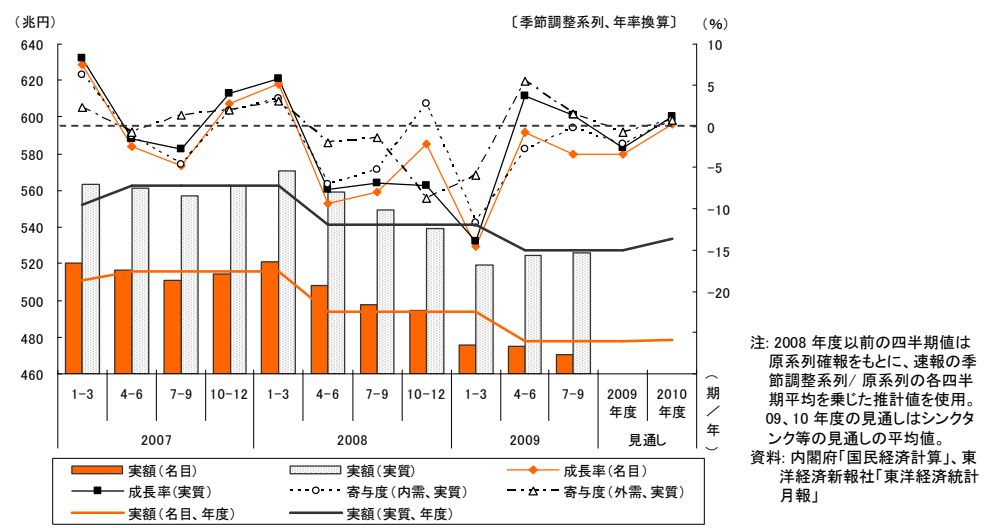
(資料)
「国民経済計算」
内閣府



財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

2 景気動向データが語るトレンドから読み取る

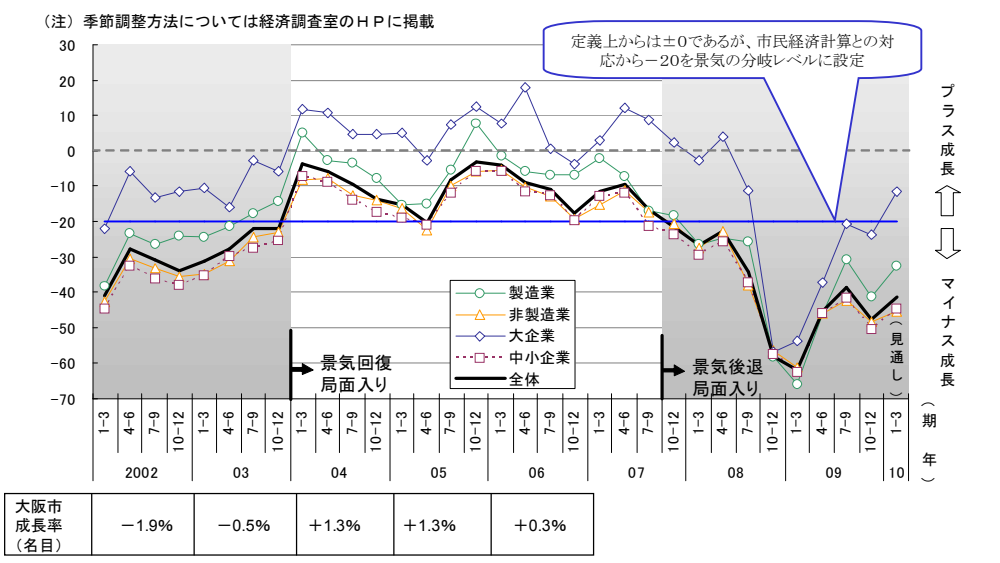
(2) 国内総生産など経済指標の動向と見通し



(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

2 景気動向データが語るトレンドから読み取る

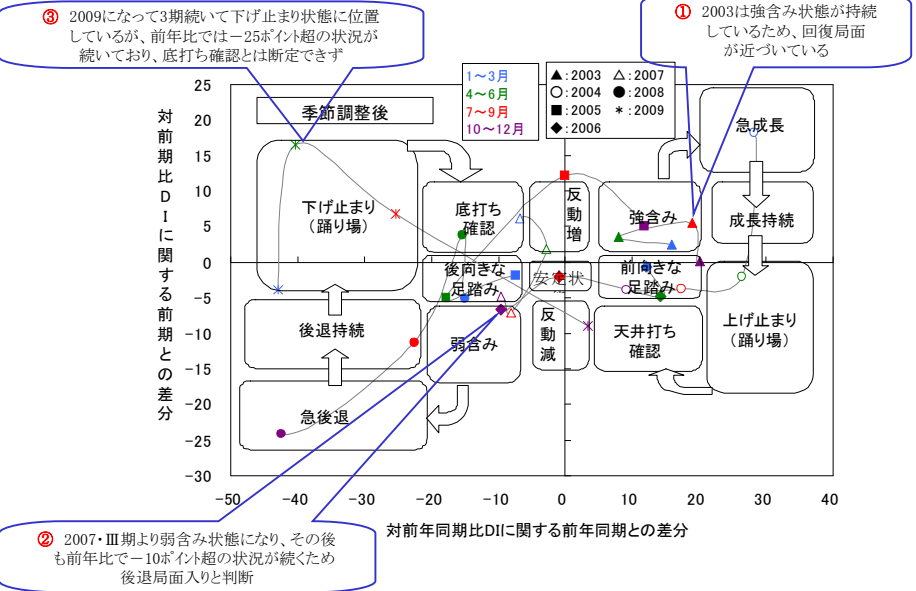
(3) 季節調整後の対前期比景況判断



(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

2 景気動向データが語るトレンドから読み取る

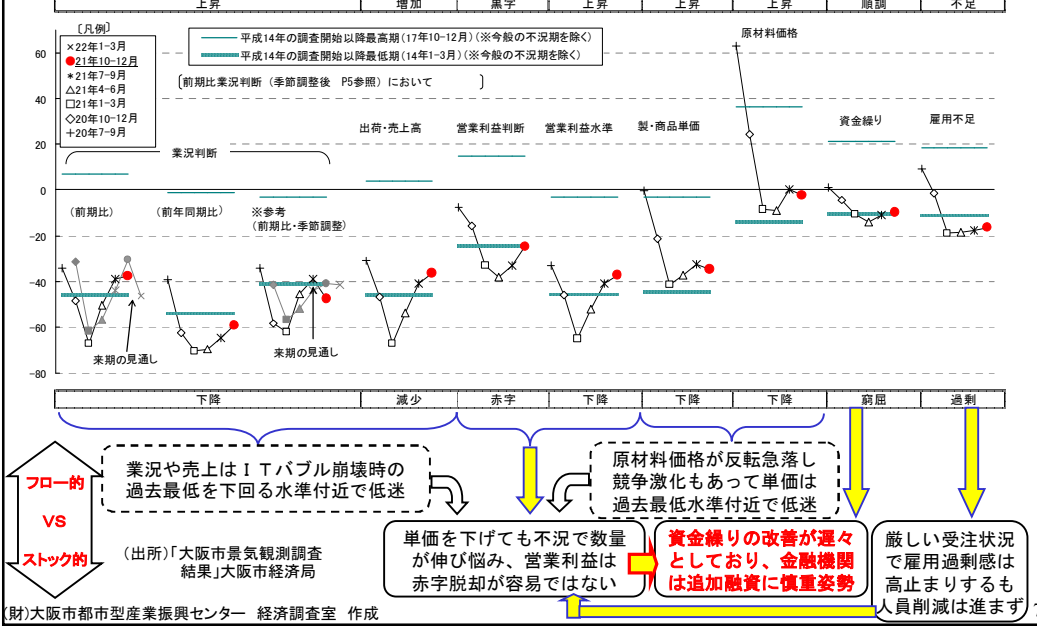
(4) 前年同期比と前期比を組み合わせた「景気動向クロス判定による現状評価」



財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

2 景気動向データが語るトレンドから読み取る

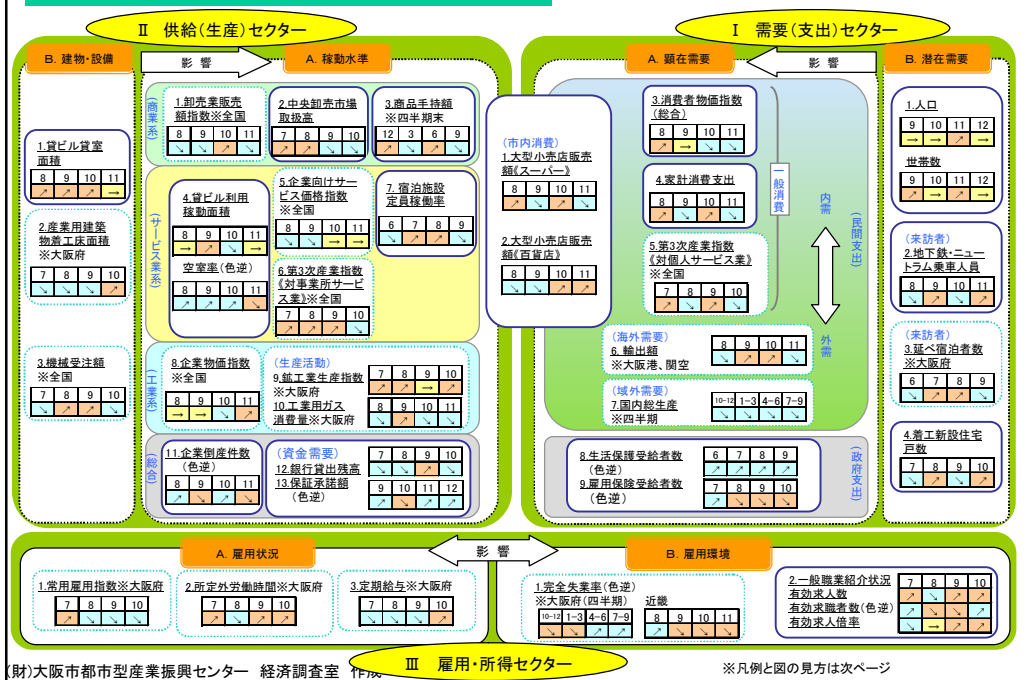
(5) 大阪市企業アンケートからみる主要指標のD Iの変化 (平成20年7-9月～21年10-12月)



財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

3 月次オーダーで大阪経済を俯瞰する

(1) 毎月の指標で見る大阪市経済



凡例

番号、指標名

月(1-3等の場合は四半期)

前月(期)比で上昇(↑)・横ばい(→)・下降(↓)を区分し、色にて意味を表現

■矢印の見方

- 前月(期)と比較して増加
- 前月(期)と比較して横ばい※0.05%未満の変化
- 前月(期)と比較して減少

■色の見方

- 景況にプラスの方向
- 景況に変化なし
- 景況にマイナスの方向

◎ただし、以下の7つの指標については矢印と色の対応が逆になっている。
生活保護受給者数、雇用保険受給者数、貸付利用空室率、企業倒産件数、保証承諾額、完全失業率、有効求職者数
逆になっている指標は、「(色逆)」で示している。
表記なしの場合 (色逆)の場合

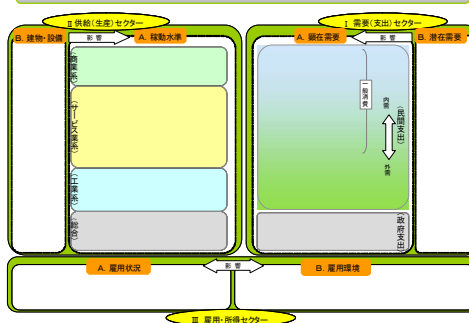
■大阪市とそれ以外の指標

指標はなるべく大阪市の範囲に近いものを優先して掲載しているが、大阪市の指標がないものは、大阪府、近畿、全国などの広範囲の指標も代用している。

◇大阪市の指標(枠は実線) ◇大阪府より広域の指標(枠は破線)

例> 4.家計消費支出 例> 5.第3次産業指数(対個人サービス)※全国

図の見方



■直近4ヶ月の大阪市経済の変化を読む

図では、経済情勢を俯瞰するために、I 需要(支出)、II 供給(生産)、III 雇用・所得の3つのセクターに分けて整理した。

I 需要(支出)セクター

A.顕在需要は、一般消費(小売・サービス等最終消費者向け)等や輸出等の需要を中心とした民間支出と、大阪市等による政府支出によって需要の動向を表す。
B.潜在需要は顕在需要に影響を与える数字を表す。

II 供給(生産)セクター

A.稼働水準は、卸を中心とした商業系、事業所を対象とするサービスを提供するサービス業系、製造業を中心とした生産活動を行う工業系、倒産件数や資金需要など産業活動を総合的に捉えた総合の4分類で、供給の動向を表す。
B.建物・設備は、各産業活動の稼働水準に影響を与える建物・設備等の状況を表す。

III 雇用・所得セクター

A.雇用状況は、雇用者サイドから、**B.雇用環境**は被雇用者サイドから、雇用・所得の状況を表す。

■ ■ 3 月次オーダーで大阪経済を俯瞰する (2) 大阪市経済の動向 (2009年12月)

需給両面で不安定な動きが見られ、景気は持ち直しに向け足踏み状態

需要面では、一般消費は年末商戦期に入ったものの、ボーナス減の見通しやデフレ基調などがあいまって、例年の勢いは見られない。順調な持ち直し基調をたどっていた輸出も減少に転じた。供給面では、商業・サービス業では下降もしくは横ばい。工業系は緩やかなペースであるが唯一持ち直しが持続。雇用面では、常用雇用の規模が縮小しつつあり、所定外労働時間でカバーする動き。ただし、求人動向に明るさが見え始めた。

II 供給(生産)セクター

【A. 稼働水準】

- ◇ **商業系** 全国の卸売業販売額(11月)はほとんどの品目で減少。
- ◇ **サービス業系** 全国の対事業所サービス業指数(10月)は4ヶ月連続上昇から転じて大幅に減少、全国の企業向けサービス価格指数(11月)は2ヶ月連続の横ばい。
- ◇ **工業系** 全国の企業物価指数(11月)は僅かに上昇、大阪府の鉱工業生産(10月)も引き続き緩やかに上昇。大阪府の工業用ガス消費量(11月)は2ヶ月連続で減少するも小幅に留まる。
- ◇ **総合** 倒産件数(11月)は減少。他方、年末を控え、保証承諾額(12月)は1.5倍に増加。

【B. 建物・設備】

大阪府の産業用建築着工(10月)を見ると、鉱工業以外が大幅増、鉱工業も低水準ではあるが増加。貸ビル貸室面積(11月)は横ばい。

I 需要(支出)セクター

【A. 顕在需要】

- ◇ **一般消費** 年末商戦に入った時期ではあるが、ボーナス減の見通しや、物価が2ヶ月続いて下落していることもあって、大型小売店販売額(11月)や家計消費支出(11月)などに見る消費は全般に勢いに欠ける展開。
- ◇ **輸出等の外需** 輸出額(11月)は大阪港・関空ともに持続していた持ち直し基調から反転して、前月よりも各々15%、9%減少。
- ◇ **政府支出** 生活保護受給者数(9月)は引き続き上昇しているが、雇用保険受給者数(10月)は3ヶ月連続で減少しピークアウトの様相が強まる。

【B. 潜在需要】

人口(12月)・世帯数(12月)ともに横ばいに近いが僅かに増加しており、地下鉄・ニュートラム乗車人員(11月)、着工新設住宅戸数(10月)は増加しており、堅調な動き。

III 雇用・所得セクター

【A. 雇用状況】

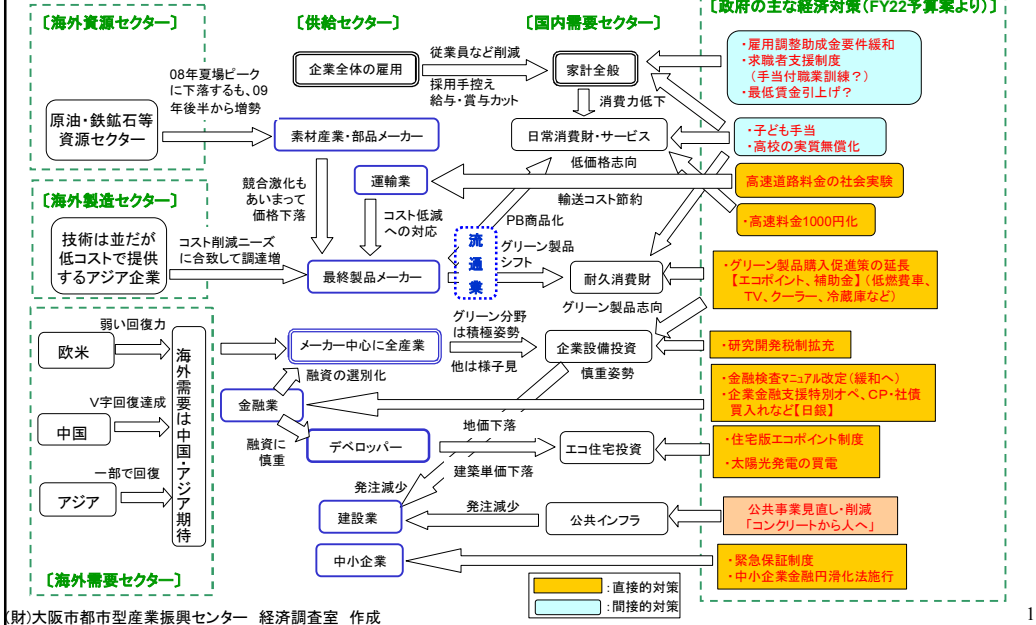
大阪府下では常用雇用(10月)が微減傾向にあることもあって、大阪府の所定外労働時間(10月)は微増し、定期給与(10月)が4ヶ月ぶりに反転して僅かに増加。

【B. 雇用環境】

近畿の完全失業率(11月)は下降傾向。市内の有効求職者数(10月)は増加に転じたものの、有効求人数(10月)が2ヶ月連続で増加したため、有効求人倍率(10月)は2ヶ月連続で上昇しており、最悪期を脱しつつある様相を呈する。

■ ■ 4 不況からの脱却の道筋はいかに

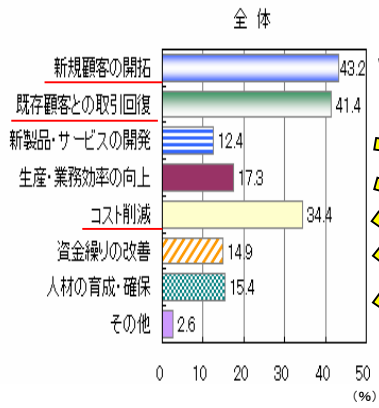
(1) 最近の経済情勢全般と政府の経済対策



■ ■ 4 不況からの脱却の道筋はいかに

(2) 企業の経営課題と大阪の余剰資源からみた不況脱却の視点

< 企業の経営課題 >



< 経営課題解決のポイント・着眼点 >

Who	Where	What	How
・上/下の所得層 ・年齢・性	・未開拓の国内 ・アジア等海外	・既存商品を ベースに改良	・自力開拓 ・提携・委託等
(既存顧客)		・新型商品 (グリー ン、低コスト)	・低価格等訴求 ・高付加価値
・潜在需要者 (グリーン志向)	・高需要エリア	・グリーン製品 ・低価格サービス	・自社開発 ・産学コラボ等
(自社)	(自社事業所)	—	・ICT活用など
・調達/委託先 ・従業員など	(自社の業務・ 生産工程)	・業務プロセス ・商品・サービス	・プロセス革新 ・省・減・再・循
・金融機関 ・取引先	—	(キャッシュ フロー改善)	・融資/リスク ・決済期限等
・自社人材 ・委託先人材	—	・業務スキル	・OJT・指導 ・研修・視察等

< ★ 不況脱却の視点 >

★大阪での余剰資源 ⇒ 安価に利用可

- ・ビル(商業、オフィス、ビル内駐車場)
- ・人材・知恵 (OB、海外ビジネス経験者、教授・研究者、留学生)
- ・労働力(若手～中高年、男女) 等々

Over
Flow

Overista = 余っているものを上手く活用する

例: Recessionista = Recession + Fashionista
(ファッションに敏感な人)

(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成